

東京都認知症介護指導者の活動事例

※本活動事例は、令和元年7月24日付けで実施した調査結果に基づき作成していますが、これらは指導者の活動のほんの一例です。

区分	指導者が関わった事業等	事業の概要	事業における指導者の役割	連携先	指導者が連携に至った経緯
認知症サポーター関係	認知症サポーター養成講座 認知症サポーター中級講座 キャラバン・メイト養成研修等	住民、職域、学校を対象に認知症サポーター養成講座や、認知症サポーター養成講座の講師役であるキャラバン・メイトの養成講座を実施。	講師を担当。認知症に対する基礎知識や認知症の人に対する支援方法、家族支援等について、具体例を交えながら、一般住民や専門職の方へ伝えた。	・東京都 ・江東区 ・他区事業所 等	先方からの相談・依頼
		近隣地域の介護保険事業者、一般企業、学校、町会などの要望に応じて、認知症サポーター養成講座を手続きを含めて手配し、出張して実施。 また、施設へ実習に来る実習生に対しても、講座を実施。	講師を担当。様々な受講者に合わせた資料の作成や、講義内容の検討を行っている。	・近隣の介護保険事業者等	以前、地域の介護事業所等より、認知症ケアについての研修依頼があり、導入として認知症サポーター養成講座を実施した結果、その後も地域のニーズに対応して実施するようになった。
		認知症サポーター養成講座修了者を対象とした中級講座（3部構成）について、区やボランティアセンター、地域密着型サービス事業所等と連携して実施。	3部構成のうち、1部の講師を担当。複数の指導者で対応した。 ※今後も、将来的に講座のスキームを行政と共同作成していくこととなった。	・板橋区 ・ボランティアセンター等	区より、認知症サポーター養成講座修了後の活動支援について相談があった。
		企業向け認知症サポーター養成講座を実施。	講師を担当。講義内容を検討（ワークショップなど）したり、介護実務における体験を踏まえた話をしたりと、幅広い年代の受講生に対し、認知症の人を支える為に必要な知識・技術等を伝えている。 複数の指導者で役割分担して実施することもある。	・東京都 ・一般企業	先方からの相談・依頼
研修・講演会関係	学研・専門職研修におけるeラーニング	専門職研修「認知症を持つ人の視点に立った介護職の役割」	eラーニングの講師を担当。日々の介護実務経験に基づく、リアルな講義を心掛けている。	・一般企業	介護福祉士会からの紹介
	多職種協働研修	認知症の人が状態に応じて適切な医療・介護・福祉の支援を受けることができるよう、認知症の人の支援に携わる専門職や行政関係者を対象とした研修を実施。	講師を担当。認知症ケアに関わる多様な職種や支援者の視点を相互に理解し、認知症の人が必要とする支援を、役割分担的かつ統合的に提供できるようにすることについて講義。	・認知症疾患医療センター	地域拠点型認知症疾患医療センタースタッフとの情報交換の中で、研修講師の依頼があった。
	小中学校での活動 職業訓練校での授業	職業訓練校で認知症や介護技術の授業（車椅子体験・高齢者体験・職業講話等）を実施。	授業の講師や、社会福祉協議会との連携・調整を担当。	・社会福祉協議会	先方からの相談・依頼
	高校の出張授業	通信制高校の生徒のうち、福祉分野に興味関心のある生徒が対象。 キャリア教育の一環として依頼があり、通年で介護に関する講義を実施。そのうち1回を「認知症の理解」として講義を行い、その後実際の介護現場で認知症利用者に関わる体験をしてもらった。	講師を担当。また、高校生が現場体験で訪れる介護事業所との日程や体験プログラムの調整を担った。 認知症について正しい理解をして欲しいと考え、こちらから講義内容について高校側に提案をして実施した。	・高校 ・近隣の介護事業所 等	高校の担当教員から介護の出張授業について、直接依頼があった。
	八王子市 認知症介護基礎研修	八王子市内の介護事業者向けに、認知症に関する基礎的な研修を実施。	講師やファシリテーターを担当。	・八王子市	主に区部で開催している認知症介護基礎研修について、市内の介護事業者等のアクセスを改善し、受講しやすくするために、市内開催を市に提案したところ、実施に至った。
認知症カフェ関係	認知症カフェの開設に向けた取組	江東区内の認知症カフェが無いエリアについて、カフェへの潜在ニーズを測り、開設を実現することで、認知症にやさしい街づくりの第一歩を目指す。	認知症カフェの開設を目指し、認知症介護指導者として助言を行うことで、協力者として参加している。現在調整中。	・江東区の地域包括支援センター	先方からの相談・依頼
	オレンジのロバ	地域住民主体で、認知症カフェを開催。特定の時間帯に、地域の喫茶店を借りて開催している。毎月学習会を実施し、板橋区の職員等を講師に迎えている。	認知症についての学習会の講師・ボランティアを担当。	・板橋区	指導者自身が周辺住民であり、開設当初から関わっている。

東京都認知症介護指導者の活動事例

※本活動事例は、令和元年7月24日付けで実施した調査結果に基づき作成していますが、これらは指導者の活動のほんの一例です。

区分	指導者が関わった事業等	事業の概要	事業における指導者の役割	連携先	指導者が連携に至った経緯
SOS訓練関係	江東区認知症高齢者SOS訓練	江東区グループホーム・小規模多機能連絡会を中心に、地域包括支援センターや行政機関、医療、警察、他区の関係者と連携し、一般区民を対象とした認知症高齢者の行方不明捜索模擬訓練を実施。 具体的には、区内公園にて、GPSやスマートフォンを用いた認知症高齢者行方不明捜索訓練を行った。また、捜索後はグループワークを通して振り返りを行った。	主催者として、全体の運営や当日の進行を行った。 また、準備段階や開催時には、他の指導者とも連携しながら、取りまとめやグループワークの進行を担い、認知症の人に関する基本的な考え方や、いかにして認知症の人にやさしいまちづくりをしていけばよいのか、参加者と意見交換した。	<ul style="list-style-type: none"> 東京都交通局 江東区 医師会 警察署 他 	グループホームに求められる機能の一環である「地域における認知症ケアの拠点」としての役割を目指し、専門職としての技術還元や住み慣れた地域において認知症の人が安心して住めるまちづくりを目指していきたいと考え、本事業を企画し、指導者として取りまとめを行った。 当初は単独開催の予定だったが、計画を進めるに連れて規模が拡大し、各所から後援を得た。
	府中市民 みまもりあいプロジェクト	市民を見守りするために、「声掛け訓練」「捜索訓練」「顔の見える関係づくり」を進めている。	主催者として、行政・医療・福祉・市民をつなげるための趣旨説明や、プロジェクトチームの発足を進めている。	<ul style="list-style-type: none"> 他の介護事業所 他 	地域づくりをするためには、非営利の地域の力が必要であると考えている。同じ考えを持つ他の介護事業所や企業を巻き込み、市内で何が出来るかをみんなで考え、少しずつ形にしている。
	認知症声かけ訓練	地域包括支援センター管轄内の認知症サポーターにハガキを送付し、事前学習会後に模擬訓練を実施。 具体的には、施設周辺で、ポイントごとに困った様子の方(認知症の方)の声かけ訓練を実施し、グループワークをおこなった。また、訓練後は振り返りを実施。	実施に際して、運営への協力と、認知症の方役の背景を考え、シナリオを作成した。 また、当日は当事者の役とグループワークのファシリテーターを担当した。グループワークでは認知症に関する基礎知識についての助言をおこなったほか、訓練の反省会に参加した。	<ul style="list-style-type: none"> 板橋区の地域包括支援センター 	同施設で以前から「認知症声かけ訓練」を行っていたため、先方から依頼があった。
ケアプログラム	認知症BPSDケアプログラム推進事業	東京都が展開する「日本版BPSDケアプログラム」において、インストラクターやアドミニストレーターとして活動。 ※日本版BPSDケアプログラムは、介護保険事業所や地域において、認知症ケアの質の向上のための取組を推進する人材を養成するとともに、BPSDの症状を「見える化」するオンラインシステムを活用し、ケアに関わる担当者の情報共有や一貫したケアの提供をサポートするプログラム。詳細は東京都HPを参照。	事業におけるアドミニストレーターやインストラクターとして活動。 <ul style="list-style-type: none"> アドミニストレーター（利用者）の作成したケア計画に対してスーパーバイズを行う。 地域のアドミニストレーターのグループワークや勉強会に係るテーマ決め、全体の進行等を担当。 アドミニストレーター養成研修の講師や、グループワークのファシリテーターを担当。 など 	<ul style="list-style-type: none"> 東京都 プログラム利用区市町村 管内の介護事業所 等 	<ul style="list-style-type: none"> 市の地域包括支援センタースタッフとの情報交換の中で、本プログラムについて情報提供を行ったところ、市として事業に取り組むこととなり、連絡会の企画や運営について相談するようになったり、また、先方(区市町村)からの相談・依頼によって担当している。 市独自に実施している認知症介護基礎研修の講師実績から、市が「認知症BPSDケアプログラム推進事業」を導入する際に、インストラクターとして依頼を受けた。
区市町村参画施策への	区市町村における各種会議への参加	区市における高齢者施策（認知症施策）等の方向性等を検討・決定するための会議等を実施。	委員やオブザーバー等として参加。 区市町村における高齢者施策や認知症施策等に関する会議体において、所属団体の代表や認知症介護指導者として、専門職の視点から提言を行っている。 ★これまでの検討内容の例：市の認知症施策について・物忘れ相談シート作成・若年性認知症ガイド・認知症ケアパスの作成・認知症に関わる人の交流会や認知症の啓発活動についてなど	<ul style="list-style-type: none"> 江東区 板橋区 足立区 府中市 他 	先方からの相談・依頼
その他	RUN伴+	区後援のもと、認知症についての普及啓発活動を主催。	地域の認知症地域支援推進員と連携し、RUN伴+の実施について、中心的な役割を担った。	<ul style="list-style-type: none"> 北区の地域包括支援センター 他 	過去の実績を踏まえ、企画段階から区に相談し、実行委員と連携して後援という形をお願いした。
	認知症家族会	八王子市の地域包括支援センターで実施。認知症の方やその家族が参加し、勉強会や寸劇などとグループで「語る場」を設け、自由に気持ちなどを表現できる場として運営。	スタッフとして参加。参加者と対等な立場で、対話を中心に関わっている。	<ul style="list-style-type: none"> 八王子市の地域包括支援センター 	開設当初から関係

東京都認知症介護指導者の活動事例

※本活動事例は、令和元年7月24日付けで実施した調査結果に基づき作成していますが、これらは指導者の活動のほんの一例です。

区分	指導者が関わった事業等	事業の概要	事業における指導者の役割	連携先	指導者が連携に至った経緯
その他	狛江市主催「介護者のつどい」業務委託	狛江市が開催する「介護者のつどい」の企画・運営・開催までを総合的に受託。運営協力を市内の全地域包括支援センター（3か所）と地域のケアマネジャーなどへ依頼した。参加対象は介護家族や一般市民等。	事業の受託者として実施。 協力者には、介護関連の事業者以外に、地域の歯科医からも講演のご協力を頂いた。 企画・運営に当たっては、多職種から協力を得た関係で、行政や協力者間で「目指すべき姿や状態」への解釈に乖離が見られ、調整に配慮した。 講師としては、専門職の視点から、在宅介護全般における介助に関連した情報等を、デモンストレーション等も盛り込みながら伝えた。	・狛江市 ・歯科医 ・他の介護事業所 他	日頃から市の認知症初期集中支援チームや認知症連携推進会議などへ参加しており、その経緯の中で本事業の相談・依頼を受けた。
	行方不明認知症高齢者等の捜索に対するGPS活用の提案	—	在宅の認知症の方について、自宅でディサービスを利用中でも無断外出が多く、警察等の捜索が頻発する方に対して、GPSを活用することを提案した。	・他の介護事業所	それまでの行方不明認知症高齢者等の捜索時における連携
	全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会・東京都小規模多機能型居宅介護協議会等	本会の運営 等	住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを実現するために、利用者や家族、地域住民、福祉・保健・医療と質の高い連携のもと、小規模多機能型居宅介護の実践を通して「誰もが地域でその人らしく普通に暮らせる」地域社会の実現を目指し、本会の運営に携わっている。	—	小規模多機能型居宅介護における介護実務経験を通して就任
	日本認知症ケア学会・部会委員	日本認知症ケア学会主催の事例検討会・基調講演会等における企画・運営を担う。	認知症ケアの現場に近い認知症介護指導者の意見を参考にしたいという意向により、委員を務めている。（委員は、医師・教授・准教授・研究員で構成） テーマに沿った講師を探したり、依頼したり、あるいは自分自身が座長になったりしている。	・日本認知症ケア学会等	先方からの相談・依頼
	介護職員かふえ	介護職員同士の繋がり場の場や、バーンアウトを防ぎ、職員がパワーチャージできる場、事業所を超えてスキルアップ出来る場として実施。行政の後援もいただいている。	毎回のテーマを決め、行政・社会福祉協議会の後援を頂くための書類作成や参加者募集を担当。	・他の介護事業所 等	介護事業所を超えて職員全員がスキルアップすることで、良質なケアを提供できるようにするため、市内の介護事業所職員と検討し、実現。
	絆のあんしんネットワーク連絡会	地域包括支援センター管内において、誰もが住み慣れた地域で孤立しない地域づくりを目指し、地域住民、各関係者が交流や情報交換を行う連絡会として実施。	認知症についての知識や理解、介護保険サービスの相談、説明等を担当。	・足立区の地域包括支援センター	日々の介護事業での連携から、認知症サポーター養成講座の共同開催などを通して連携の依頼を受けるようになった。
	認知症予防 ダンスカフェ（社交ダンス体操教室）	社交ダンスの要素を取り入れた体操教室とカフェを実施。講師は社交ダンスの公式インストラクターと介護予防運動指導員の資格を持つ方に依頼し、社交ダンスの特性を活かして、音楽と運動で認知症の予防を図るために開催。	ダンスカフェの開催準備と運営、講師調整と広報を中心に行い、参加者への認知症予防について、カフェで情報提供を実施。認知症の予防効果に関するエビデンスを基に、地域への呼びかけを行っている。	—	当初は介護予防・日常生活支援総合事業の対象者が利用できる社会資源の創出として開始。
フロム浅草	医療介護連携の仕組みを作るため、関係者による交流会を実施。	交流会参加者に対し、認知症の訪問介護現場で行われている活動（BPSDに対する取組）事例の研修や、実際に認知症の人やご家族と関わる上でのアドバイスを担当。 交流会参加者には医療関係者や薬剤師の方も多く参加をされたが、実際の介護現場で行われているBPSD改善事例の研修や意見交換をすることで、認知症の人を医療の面から支える人々にアドバイスをすることができた。	・薬局 他	区の薬剤師から医療介護連携の仕組みを作る交流会をしたいと相談があり、認知症介護指導者として参加をすることになった。	